



な・つ・が・き・た！

ぐりとぐらのかいすいよく

なかがわ りえこ さく やまわき ゆりこ え

福音館書店 Eーヤ

ぐりとぐらがなみうちぎわであそんでいると、なみにひかるものをみつけます。それは、とうもろこしのかわを、おなかへまいたびんでした。ぐらはさきのとがったかいがらをつかって、コルクのせんをぬきました。びんのなかからでてきたのは「しんせつなともだちへ」とかかれたてがみと、ちずとうきぶくろでした。

魔女がいっぱい

ロアルド・ダール 作 清水 達也／鶴見 敏 訳

評論社 933-ダ

ぼくとおばあちゃんは^{なつやす}夏休みにノルウェーで^す過ごす^{けいかく}計画をたてていました。ところが、おばあちゃんが^{はいえん}肺炎になってしまい、かわりに^{くうき}空気がよいイギリスのホテルにいくことになります。おばあちゃんからもらった^{にひき}二匹のハツカネズミもホテルにつれていき、ぼくは^{ぶとうしつ}舞踏室の大きな^{おお}びょうぶの^{うし}後ろでネズミの^{げい}芸の^{くんれん}訓練をしていました。すると、ホテルの^{しはいにん}支配人が^{ふじん}婦人の^{いちだん}一団を^{あんない}案内してなかへはいつてきたのです。

ウエズレーの国

ポール・フライシュマン 作 ケビン・ホークス 絵

千葉 茂樹 訳 あすなろ書房 Eーホ

^{まち}町のほかの^こ子たちとはちがっているウエズレーには、ちょっかいをだしてくる^こ子はいても、ともだちはいませんでした。ウエズレーはじぶんだけのかくれ^が家があったらといつもかながえていました。^{なつやす}夏休みの^{しゅくだい}宿題に^{じゅうけんきゅう}自由研究があり、ウエズレーはじぶんだけの^{さくもつ}作物と^{ぶんめい}文明をつくろうと、とつぜんひらめきます。

かき氷 天然氷をつくる

細島 雅代 写真 伊地知 英信 文 岩崎書店 588-ホ

冬ふゆにこおらせ、夏なつまで保存ほぞんした氷こおりを天然氷てんねんこおりといいます。いまでは天然氷てんねんこおりをつくる氷屋こおりやも、全国ぜんこくで数軒すうけんだけになってしまいました。夏なつがすぎるころ、次つぎの氷こおりづくりの準備じゅんびがはじまります。氷こおりは人ひとの口くちにはいる食べ物たものなので、氷池こおりいけのまわりの草くさをきれいになり、氷みずの水質すいしつも検査けんさし、氷池いけはきれいに洗あらわれます。

妖怪一家の夏まつり

富安 陽子 作 理論社 913-ト

九十九さんちの家族つぐも かぞくはみんな妖怪ようかいです。やまんばおばあちゃんにんげんが人間ひとのお友だちともに推薦すいせんされ、夏まつりなつまつりの実行委員長じっこういんちようになりました。おばあちゃんなつは夏まつりなつの盆踊りぼんおどのやぐらくを組むため、広場ひろばの真ん中まなかにある石いしをどかしてしまいます。しかし、それは決して動かけつしてはいけうごない石いしなのでした。

おっきょちゃんとかっぱ

長谷川 摂子 文 降矢 奈々 絵 福音館書店 E-フ

おっきょちゃんがひとりでかわであそんでいると、どこからか「ほい ほい ほい」とこえがしました。おっきょちゃんがみまわすと、あかいかおをしたきみようなこどもが、みずのうえにかおをだしています。そのこはガータロといい、おっきょちゃんに「おまつりなのに だれもあそびにこんから、おまえ、おきゃくさんになれや」といいました。

シャイローがきた夏

フィリス・レイノルズ・ネイラー 著 さくま ゆみこ 訳

あすなろ書房 933-ネ

日曜日にちようびの午後ごご、マーティが川かわぞいの道みちを歩あるいていると、やせたビーグル犬けんがいました。マーティが「おいで」と言いって手てをのばしますが、犬いぬは立たちあがって後あとずさります。あきらめてまた歩あるき始めはじめると、犬いぬはマーティについてきました。マーティが思おもいつきで口笛くちがえを吹ふくと、犬いぬはしっぽをぴんと立たてて突進とっしんし、マーティの脚あしにとびつきます。